



尾張旭ロータリークラブ

Weekly

「例会は親睦なり、深めよう親睦！」

・会長 井田 武憲
 ・幹事 桜井 雅博
 ・会報 占橋 裕志
 ・事務局 尾張旭市商工会館 TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945
 E-mail : owariasahi@mtc.higoh.ne.jp
 URL : http://www.owariasahi-rc.jp/

ふれあい、思いやり、そして握手

本日 第2058回 2013年5月24日(金) No. 1948

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

ロータリーソング「奉仕の理想」

卓話担当者:例会運営委員会

早朝例会

於 良福寺

前 回 第2057回 2013年5月17日(金) 記 録

- 齊 唱 : 「四つのテスト」
- ゲスト : 株式会社 Arc 代表取締役社長
名古屋名東RC 梅本 祐樹君
- 出席者 : 会員28名中21名出席 出席率75.00%
前々回補正出席率 4月26日分85.71%



える、8月→会員増強及び拡大、9月→新世代のため、10月→職業奉仕及び米山奨学、11月→財団、12月→家族、1月→理解推進、2月→世界理解、3月→識字率向上、4月→雑誌、5月→出席奨励、6月→親睦活動とあり、9月と3月には当クラブ独自のOFDY月間として設定されています。これらを考えますと、スケールのおおきさに驚かされます。内容も、ロータリーの本質に始まり、世界的な発想、そして各クラブの喚起など多岐な範囲になっています。これからの目標も、それぞれ各会員の皆さまがどれほどの関心度を持たれているかにかかってくるかと思われま。机上の目標ではなく実践的に対処していくのも一つの方法ではないでしょうか。

5月は出席奨励月間です。例会に出席して大いに親睦を深めたいものです。

幹事報告

- ・5/30 第14回(現・次期)理事役員会 井田会長以下12名出席
- ・3分間スピーチはありません。
- ・本日の会合:第5回(現・次期)OFDY委員会
- ・次回の例会:早朝例会
- ・例会変更のお知らせ:別紙。

会長あいさつ 井田 武憲

今の季節、朝夕の寒暖の差が心身ともにひきしめてくれますし、庭、公園、街路樹、山の木々、すべての芽吹きが身を包んでくれます。

さて、ロータリークラブには、毎月、月間目標が設定されています。7月→ロータリーを考

出席奨励月間

	5月31日(金)	6月 7日(金)	6月14日(金)	6月22日(土)
例会予定	卓話担当者:丹羽 敏行君 卓話者: 〃 演 題:「私の仕事と趣味」	卓話担当者:会員増強委員会 卓話者:箕輪 良孝君 演題:「新人会員を迎えた時は」	卓話担当者:例会運営委員会 卓話者:唐井 仁一君 演 題:「一年間を振り返って」	21日振替 夜間例会 於神楽家(名古屋市東区) 18:00点鐘
3分間スピーチ	—	—	—	—

ニコボックス

○前回家内の誕生日を祝っていただき。

大竹 薫君

○名古屋名東RC 梅本 祐樹様ようこそいらっしゃいました。卓話よろしくお願ひいたします。

井田 武憲君、桜井 雅博君

浅野 善吉君、飯田 幸雄君

加藤 清久君、古橋 裕志君、森井 晴生君

○ご心配おかけして申し訳ありません。再起にご猶予いただきたいと思ひます。大竹 薫君

○前回、旭労災病院への要望をお聞かせいただひいて。木村玄次郎君

○60年遷宮出雲大社に行ってきました。

箕輪 良孝君

○次期親睦活動委員会の皆さん、先日はありがとうございました。おかげ様で有意義な会合となりました。

唐井 仁一君

○しばらく御無沙汰して。加藤 勇夫君

卓 話

株式会社Arc: 梅本 祐樹



「はじめに」

皆様、こんにちは。名古屋名東RCの梅本と申します。

私の会社は、所謂IT業に携わっており、パソコン用のソフトウェアや携帯・スマホ向けのアプリなど、「ソフトウェアのプログラム」を生業としております。

本日は、その内の「ウェブサイト」について、ということでお話をさせて頂きたいと思ひます。内容としましては、

- ・最近のウェブサイトの動向等
- ・他RCの事例や、セキュリティについて
- ・尾張旭RC様ウェブサイト再構築について

の3部に分けた構成で考えております。

少々余談になりますが、インターネットに上がっている沢山のページについて、その呼び方は様々で、よく見かける言葉としては「ウェブサイト」「ウェブページ」「ホームページ」などがあります。

実はこれらには、それぞれが全く同じものを指すわけではなく、厳密には若干の違いがありま

す。ただし、完璧な定義があるわけではなく、また、もともと誤用であった使い方でも、今では市民権を得ているものもありますので、細かい定義のお話は別にしておき、ここではウェブページを「インターネット上に公開されている文書の1ページ」、ウェブサイトを「ウェブページのまとめ」として以降のお話を続けさせていただきます。

紙の本に例えると、ウェブサイトというのは一冊の本全体を指し、中のページ一つ一つがウェブページに相当します。

「1部：最近のウェブサイトの動向等」

今から6~7年ほど前から「Web2.0」というキーワードが盛んに使われるようになってきました。この言葉は、もともと「ティム・オライリー」という方が提唱した単語です。オライリー氏はコンピュータ関連の書籍出版、ウェブサイト作成、カンファレンスの開催などを主な業務としている「オライリーメディア」という企業の創始者で、「フリーソフトウェアとオープンソース運動」という活動の支援者としても有名な方です。同氏の発言によると、現在の「Web2.0」という単語の使われ方は正しくないようなのですが、一般的には「さまざまな情報を融合させたインタラクティブ(対話的な)ウェブ」のことを指して「Web2.0」とされているようです。2.0というのだから当然1.0もあるのですが、これは「Web2.0」という単語が出てきた当時に、そうでないものを指してあとからつけられた呼称です。

具体的には、どうなのかといいますが、「Web1.0」の時代、ウェブサイトは一方向的に情報を発信し、閲覧者はその情報を受信・閲覧するのみでした。

これが「Web2.0」の時代になると、ウェブサイトは閲覧者側からの情報を受け取り、その情報をもとにして、動的に発信する情報を変化させます。また、それらの情報をほかの閲覧者と相互共有することで、インターネット上に一つのコミュニティを生み出し、それが後の「ソーシャルなメディア」へと繋がってきました。このようにして、現在ではtwitterやFacebookをはじめとする、相互に情報を発信する新しいメディアが形成されているのです。同様に、一般個人や企業・団体が作成するウェブサイトも時代と共に進化しています。

一昔前までは、企業や団体のウェブサイトは、自社の製品情報や広報などを一方向的に配信するのみにとどまっていたましたが、現在ではより相互的な仕組みを提供することで自社のウェブサイトの価値を高めています。例えば、BTOパソコンの販売会社であるDellでは、ウェブサイトの中にチャットをベースとしたカスタマーサポートを設置し、購入者がいつでも、気軽にサポートを受けられるような体制を整えています。また、RCのような団体では、そのウェブサイトの



中で相互に情報を発信し、蓄積・編集ができるような仕組みを多数組み合わせることで、予定の共有や、簡易的な稟議システムなどを運用し、時間や場所にとらわれないコラボレーションを実現しているものも多くあります。

さらには、従来のウェブサイトという枠組みから一歩進んで様々なサービスが提供されており、Googleが提供する各種サービスはインターネットの利点を最大限に生かした情報共有ツールとして活用されています。

弊社でも、各自の予定の共有でGoogleカレンダーを活用し、関連する社員同士の予定は常に相互参照可能なようにしています。また、Googleドライブという仕組みの中では、様々なデータを共有し、リアルタイムに更新した情報を相互にやり取りすることが可能です。このGoogleドライブの中にはMicrosoft OfficeのWordやExcel、Power Pointに似たものが用意されており、インターネット上で直接これらのソフトウェアを利用することができるため非常に便利です。反面、これらのツールを利用することにはリスクも存在しますが、こちらは第2部で少し触れさせていただくことにして、今は、これらのツールを正しく利用することで、実生活をより便利で効率的なものにできる力が、インターネットの世界には存在するというをお伝えしたいと思えます。

2013年現在では、「Web2.0」からさらに進んで「Web3.0」や「Web4.0」というワードまで登場していますが、オライリー氏の発言の中に「もしWeb 3.0が来たなんて話をする人がいたら、信じない方がいいね」というものがありますので、私の話を信じていただくためにも、第1部はこのあたりでまとめさせていただきます。

「2部：他RCの事例や、セキュリティについて」
2760地区のRCウェブサイトの掲載状況は、「南尾張分区：6/7」、「西尾張分区：7/9」、「東尾張分区：10/11」、「西名古屋分区：10/13」、「東名古屋分区：10/11」、「東三河分区：9/13」、「西三河中分区：9/9」、「三河中分区：9/9」となっており、全体としては、70/82ですので、実に85%以上のロータリークラブがそれぞれのウェブサイトを持っています。ただ、皆一様

な内容のウェブサイトというわけではなく、ロータリークラブについての一般的な紹介からクラブ内の活動詳細、ウィークリーの掲載などまで多くの活動を網羅しているウェブサイトもあれば、必要最小限の情報発信にとどめているものまで様々です。

私の所属する名古屋名東RCは現時点では独自のウェブサイトを持っておりませんが、次年度に向けて現在準備中です。現在、その準備のため都度協議を行っており、私もその協議の中に参加しておりますが、「どこまでの情報を掲載すべきなのか?」「誰に向けて、何を発信すべきなのか?」など、議論は尽きません。

ウェブサイトに情報を掲載するという事は、全世界に向けて情報を開示することであり、迂闊な情報を載せてしまうと、思わぬところで大きな問題となってしまうこともあります。最近では、twitterやFacebookなど、少し前であればblogをはじめとするウェブサイトで、誰もが気軽に自身の情報を発信できる場が数多くあります。個人のレベルでいえば基本的にこれらのウェブサイトの中における発言を閲覧するのは身近な友人ばかりですが、一方で「見ようと思えばだれでも見ることができる情報」であることを忘れてしまい、軽い気持ちから、反社会的な発言や、公序良俗に反するような発言をしてしまって、それが何かの拍子で広がり、嵐のような批判の的となってしまうこともあります。このような現象を「炎上」と言いますが、インターネット上で発信する情報は常に誰かに見られていることを意識して十分に注意することが必要です。しかし、だからと言って畏縮してしまい、情報の発信が不十分となってしまうのであれば、それはウェブサイトとしての意味や価値を失いかねません。

重要なのは、やはり「そのウェブサイトの目的は何なのか」を十分に考え、過不足のない情報をわかりやすく、そして誤解の無いように掲載することではないでしょうか。

ここからは私見ですが、ロータリークラブのウェブサイトについて押さえておくべきポイントは、

1. 対外的な情報発信
2. クラブ内の様々な活動における情報共有
3. 過去の活動記録やその資料のアーカイブ(保存)

の3点ではないかと思えます。

このうち、2.と3.の情報については、個人情報をはじめとして、取扱いに注意の必要なデータも多く含まれることでしょう。シンプルな解決策は、それらの対外的に公開していくべき情報と、内部的で公開すべきでないような情報をしっかりと分類し、後者についてはID/パスワードによる認証付きの領域に隔離することで、アクセスすべき閲覧者のみが参照可能なようにすることです。つまり、ウェブサイトの構築時点でそのような情報整理が可能であるようにしっかりと構成すること、更新の際には、追加する情報を

正しく整理し、しかるべき場所へ記録していくことが重要になるわけです。

また、それだけではなく、閲覧する側にも注意すべき点があります。内部情報について、ID/パスワードにより認証をかけていたとしても、その情報が第三者に漏えいしてしまえば、その秘匿性が失われてしまいます。例えばEメールですが、この内容は第三者から絶対に参照されないものではありません。このような連絡手段の中で、ID/パスワードを記述してしまえば、それはもう「誰かに見られているかもしれない情報」なのです。インターネット上でやり取りされるデータについては常に「盗聴」されているかもしれない、ということを念頭に置き、漏えいしてはいけない情報を不用意に発信しないよう、心がける必要があります。

しかし、これ以上に怖いのは、メモ書きなどの「紙」です。パソコンのログイン情報をモニタに張り付けている方を多く見かけますが、デジタルではなく、こういったアナログな情報から始まって、最終的に重要なデジタルデータを「盗難」されてしまうことは、十分に可能性のあることです。できることなら、メモに頼らず頭に記憶してしまおうことが望ましいですが、現実的には非常に困難ですし、「忘れてしまう」リスクも大きいので、やはり、重要なメモは「管理を徹底」し、容易に情報が漏れてしまわないように気を付けるしかありません。

こういうお話をしてしまうと、インターネットは「何か怖いもの」のように思われてしまうかもしれませんが、デジタルの世界であっても、本質は実生活と同じであり、重要なのは1つ1つの行動をしっかりと考えてから行うこと、そして、整理整頓を正しく行うことに尽きるのではないのでしょうか。

「3部：尾張旭RC様ウェブサイト再構築について」

所謂「IT革命」が巻き起こった2000年代当初、多くの法人・個人が競ってウェブサイト制作・公開しました。当時はウェブサイトを持っていること、公開していることだけで「満足」できる「ステータス」を感じることができた時代でした。しかし、そのような時代はすでに終わりを迎えています。

ではウェブサイトを持っていること、公開していることの意味は何でしょうか。

ウェブサイト制作に携わる人なら誰もが知っているべきことですが、それは「目的」を持って制作・運用を続けることです。

例えば民間の営利団体であれば、自社製品・サービスを売り込むための営業ツールとして、例えば問屋・小売店であれば、取扱商品を販売し売上を得るためのツールとして制作・運用しています。

「制作・運用」という単語をお出ししましたが、このどちらが重要でしょうか。もちろん両方と

も重要なのですが、「運用」の方が「制作」よりも難しく、それ故に重要視すべき点になります。

ウェブサイトの制作にあたっては、

- ① コンテンツの洗い出し
- ② サイト構成の設計
- ③ ページ構成の設計、デザイン、コーディング
- ④ 運用、更新

といった段取りで進めます。

1.～3.については、当然しっかりと考え、良いものを作る必要があるため、頭を悩ませますが、4.の運用保守については、ウェブサイトを開発してから終了する日まで、ずっと頭を悩ませ続けなければなりません。

近年では、運用・更新をサポートするプログラムを組み込み、その作業をできる限り多くの人が、簡単に実行できるようなウェブサイト構築が主流になってきています。

このような目的で利用されるのが「MovableType」「Wordpress」等に代表される、所謂「オープンソースCMS」と総称されるものです。

これらのCMSの中に「国立情報学研究所」が属する情報・システム研究機構により提供される「NetCommons」と呼ばれるものがあります。

NetCommonsを利用してウェブサイト構築することにより、運用・更新の作業を、多くの人が、より簡単に更新できるようになり、また、追加で提供されるプラグインを利用することで第1部、第2部で挙げたような、カレンダーの共有をはじめとするコラボレーションツールとして利用することも可能になります。

また、認証システムなどと組み合わせ、会員専用のページを設け、内部の方のみが閲覧すべき情報と、多くの方に知っていただきたい情報とを分離し、一元的に管理することも可能となります。必然的に整理整頓された状態となるため、バックアップや過去の情報の蓄積、将来のRCのために残すべき情報の整理整頓まで同時に行えるようになります。

もちろん、これらのシステムを利用してウェブサイト立ち上げるのは、単純なウェブサイトの立ち上げよりも多くの知識を必要としますが、その労力に余りある恩恵を得られます。

また、NetCommonsはFreeBSDというライセンスの下で、無償で利用できるよう提供されていること・国内で信頼のおける機関によって提供されていることから、日本の様々なサイトで広く活用されています。

このようなシステムを利用したウェブサイト運用し、第二部で申し上げたようなセキュリティに注意して、内部にはより便利で、外部にはより積極的な情報提供をめざし、ロータリークラブとしての活動に付加価値を与えることができれば、そのクラブはインターネットの力を十分に活かしたロータリークラブであるといえるのではないのでしょうか。